

名古屋大学
融合フロンティアフェローシップ
募集要項（新規募集）

○募集対象年次

2023 年度募集（第 2 回）

博士後期課程	2023 年 4 月入学・進学予定者 2023 年 10 月入学・進学予定者
医学博士課程	2023 年 4 月博士 2 年次進級予定者 2023 年 10 月博士 2 年次進級予定者

2024 年度募集（第 1 回）

博士後期課程	2024 年 4 月入学・進学予定者
医学博士課程	2024 年 4 月博士 2 年次進級予定者

*上記以外の詳細は、4.申請資格をご参照ください

2023 年 1 月

名古屋大学融合フロンティアフェローシップ募集要項(新規募集)

【2023年度募集(第2回) / 2024年度募集(第1回)】

1. 趣旨

名古屋大学(以下「本学」という。)は、「融合領域を開拓し、未来の知の創出や社会実装を担い、グローバルに活躍できる博士人材」の育成を目指しています。

「名古屋大学融合フロンティアフェローシップ事業」(以下「本フェローシップ」という。)は、本学博士課程に進む学生が、博士後期課程3年間を通じて、深い学識と卓越した能力を身につけ、その経験で培った様々な力を、博士学位取得後に社会の多様な場で発揮していただきたいという思いのもと作られた、**研究と生活を両面からサポート**する制度です。

この制度を通じて、輩出する博士人材が、我が国の継続的な学術の深化や、次世代の科学技術・イノベーションの創出を担い、活力ある社会の構築に寄与することを期待するものです。

本制度は、国立研究開発法人科学技術振興機構(以下「JST」という。)[科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業]と名古屋大学により実施されるものです。JSTの制度変更に伴い、本事業の内容に変更が生じる場合があります。

2. 申請対象分野(4分野)

4分野あります。分野ごとに目的とする育成人材像が異なります。(別表1を参照)

I: アジア未来創造分野、II: 情報・AI分野、III: 量子科学分野、IV: マテリアル分野

留意事項

- ・所属する研究科・専攻を問わず、いずれの分野にも申請可能です。
- ・申請は最大第3志望まで選択可能です。

3. 採用予定人数

	2023年度募集(第2回)	2024年度募集(第1回)
アジア未来創造分野	15名程度	13名程度
情報・AI分野	15名程度	13名程度
量子科学分野	10名程度	6名程度
マテリアル分野	10名程度	7名程度

※各分野の採用予定人数は目安です。

4. 申請資格

本フェローシップに申請できる者は、次の(1)~(3) いずれにも該当する者（留学生を含む）とします。

<2023年度募集（第2回）>

博士後期課程 2023年4月又は10月入学進学予定者

医学博士課程 2023年4月又は10月に博士2年次になる者

<2024年度募集（第1回）>

博士後期課程 2024年4月入学・進学予定者

医学博士課程 2024年4月博士2年次進級予定者

(1) 在籍条件

2023年度募集（第2回）

本学博士後期課程、医学博士課程に入学進学を希望する者で、2023年4月又は10月に博士後期課程に入学進学する（医学博士課程2年次になる）者

2024年度募集（第1回）

本学博士後期課程、医学博士課程に入学進学を希望する者で、2024年4月に博士後期課程に入学進学する（医学博士課程2年次になる）者

(2) 博士後期課程入学時（医学博士課程については2年次になる時）において、以下のいずれにも該当しない者

- ① 所属する大学や企業等から、生活費相当額として十分な水準（240万円／年を基準する。）で、給与・役員報酬等の安定的な収入を得ていると認められる学生
- ② 国費外国人留学生制度による奨学金を受ける留学生
- ③ 母国からの奨学金等の支援を受ける留学生
- ④ 日本学術振興会の特別研究員

※上記②~④の事業に内定した段階で、本事業（名古屋大学融合フロンティアフェローシップ）を辞退することになります。

(3) 「東海国立大学機構融合フロンティア次世代リサーチャー」（2023年度募集(第2回)又は2024年度募集(第1回)) に応募していない者

留意事項

- ・本事業における支援期間中に、本事業以外からの支援を受ける予定の場合、併給が可能かを当該奨学金等の事務局又は所属する研究科の教務担当に確認してください。

- ・本募集は、フェローシップに係る募集であり、本学に入学し本事業の支援を受けるには、別途、各研究科が実施する入学試験に合格する必要があります。
- ・応募情報登録時に選択した時期に博士後期課程に入学・進学（医学博士課程においては2年次進級）しない場合は、本事業の支援を受ける資格を失います。

5. フェローシップ奨励金（以下「奨励金」という）

フェローには、以下の奨励金が支給されます。

(1) 研究専念支援金 月額 18 万円

原則毎月末までに、本人の口座に振り込まれます。当所得は、雑所得となりますので、毎年確定申告*の手続きが必要となります。

※：留学生は、租税条約の手続きを行うことにより確定申告が不要になる場合があります。

(2) 研究費 年額 25 万円

本学にて研究費を管理いたします。本学の会計手続きに従い、研究計画に沿った支出を行うこととなります。

※(1)研究専念支援金、(2)研究費ともに、博士課程 1 年次および 2 年次（医学博士課程は 1 学年上の年次）時に実施する年度評価^{注)}等の結果により、金額を増額する場合があります。

注) 年度評価

博士課程 1 年次：標準修業年限での修了可能性、国際共同研究・融合研究の計画状況、IELTS 5.5 相当以上の確認

博士課程 2 年次：標準修業年限での修了可能性、国際共同研究・融合研究の実施状況、IELTS 6.0 相当以上（留学生は、英語と併せて日本語能力試験 N2 相当以上）の確認

6. 支給期間

奨励金の支給期間は最大 3 年間です。（ただし、支給中断・停止要件に該当した場合は、支給期間が短くなる場合があります。）

7. 申請書類

- (1) 名古屋大学融合フロンティアフェローシップ申請書（様式 1）
- (2) 研究概要等（様式 2）
- (3) 指導教員等評価書（様式 3）
- (4) 申請概要説明動画（詳細については別紙「動画作成について」参照のこと）

8. 申請手続き

別紙、「『名古屋大学融合フロンティアフェローシップ事業』『東海国立大学機構融合フロンティア次世代研究事業』申請手続きについて」を参照の上、申請してください。

申請情報登録期間 2023年1月23日(月)～2023年2月6日(月)14時

申請書提出期間 2023年2月2日(木)～2023年2月14日(火)14時

9. 選考及び結果について

(1) 選考

第1次審査(書類・動画選考)及び第2次審査(面接選考)を実施します。ただし、第1次審査通過者のうち、第1次審査の結果により、第2次審査を免除し、第1次審査をもって合格とする場合があります。第2次審査(面接選考)は、第1次審査(書類・動画選考)通過者のうち、第2次審査免除者を除き実施します。

また、審査は、第1志望の分野により実施しますが、応募状況により、第2志望以降の分野で審査を行う場合があります。

留意事項

- ・第2次審査(面接選考)を以下の日時に実施いたします。なお、日時指定に関する希望は一切応じることができません。
- ・面接対象者への通知は、「(3)結果通知」の「○通知方法」と同じ方法で行います。

面接選考日

分野	候補日
アジア未来創造分野	3月23日(木)午前
情報・AI分野	3月29日(水)午前
量子科学分野	3月28日(火)午後
マテリアル分野	3月31日(金)午前

- ・面接選考対象者は面接日の2-3日程度前に通知いたします。
- ・オンラインにより実施します。

(2) 審査方針

評価項目は、以下のとおりとし、個々の要素を踏まえて評価を行います。また、各分野の審査基準は別表1をご参照ください。

- ① 海外を含む有力な研究機関・企業等との共同研究、あるいは融合研究領域における

挑戦的研究能力があること

- ② 将来を担う優れた博士人材となることが十分に期待できること。
- ③ 研究方法が独創的で、標準修業年限内での研究課題設定が適切になされていること。
- ④ 博士号取得後のキャリアと標準修業年限内で培う能力等を明確に自覚していること。
- ⑤ 各分野において設定する基準

(3) 結果通知

合格者に対して、以下のとおり通知を行います。

結果通知日

4月13日（木）

○通知方法

申請時に登録した電子メールアドレス宛に通知。

10. フェローの義務

フェローとして、奨励金を受給する者には、以下の義務が課されます。

- (1) 当該年度の研究に関する報告書及び次年度以降の研究活動計画書を提出。
- (2) 指導教員・メンターもしくはキャリア相談教員等との面談。
- (3) 日本学術振興会特別研究員事業への応募。
- (4) 毎年度の活動の評価を受けること。
- (5) 対象分野が認定する講義、研修、セミナー等の参加。別表1を参照。
- (6) 本学が指定する公的資金の使用に係る研修、研究倫理教育の受講。
- (7) 義務の実施状況について、指定されたシステムへのデータ登録。
- (8) フェローシップ期間終了後の調査への協力。
- (9) その他本学が必要と定めた事項。

11. 奨励金支給の停止

次のいずれかに該当する場合は、奨励金の支給を停止します。

- (1) 退学、除籍又は転学したとき。
- (2) 停学の処分を受けたとき。
- (3) 学業成績が不良となったとき。
- (4) 年度毎の研究成果の報告を怠ったとき。
- (5) 研究奨励金を必要としない理由が生じたとき。

(6) 申請資格(3)の①～④に該当したとき。

(7) (1)～(6)のほか、フェローとして適当でない事実があったとき。

12. 奨励金の返還

支給中断、停止の事由により、受給資格がないにもかかわらず支給を受けた奨励金があるときは、その支給を受けた金額のうち受給資格がないものとされる部分の金額を本学に返還することになります。

13. フェローシップ期間終了後の調査への協力義務

当制度は、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」の補助の下に実施するため、終了時から10年程度、就職等の現況調査等を行う可能性がありますのでご承知ください。

フェローシップ期間終了後であっても連絡することがあるため、連絡先の住所、就職先、Eメールアドレス等が変更になった場合は、本学担当先（博士課程教育推進機構）へ必ずご連絡願います。

以上

「融合フロンティアフェローシップ」に関する問合せ先
博士課程教育推進機構
教育推進部教育企画課

問合せ専用フォーム

<https://dec.nagoya-u.ac.jp/inquiry/top>



	アジア未来創造分野	情報・AI分野	量子科学分野	マテリアル分野
フェロシップ事業の目的・育成する研究者像	アジア諸国との共生を志向し、SDGsへの貢献と豊かで活力ある社会の構築を目指す学生に対して、融合領域の研究教育に関わる機会やプログラムを提供することにより、国内外との共同研究を通じ、未来の知的創造的創出や社会実装を担うグローバル博士人材を育成する。	モビリティ分野、創薬・医療・個別化予防、基礎医学など医学分野を中心に、人文社会学、理学、数理学、農学など広い分野を支え、牽引し、発展させる。未来の知的創造的創出や社会実装を担い、グローバルに活躍する情報・AI博士人材を育てることを目的とする。	量子科学分野の対象となる数学・理学などの量子基礎学理から、半導体等を用いた量子デバイス応用までの幅広い研究階層に対し、階層間を融合した学術研究を切り拓き、グローバルに活躍する卓越した博士人材を育てることを目的とする。	我が国のマテリアル革新の原動力となる人材育成を目的とする。 電気電子・機械・情報・エネルギー・生物・医療・農業などの多分野とマテリアル科学の融合領域を開拓し、基礎学理から応用に至る上流から下流までを俯瞰的に捉えて革新のプログラムを生み出すために必要な研究力を有して、自身のキャリアを切り拓ける卓越した博士人材を育成する。
審査基準	(1)本フェロシップ制度の目的を理解し、主体的に取り組みに参加し、積極的に異分野の学生や研究者と交流を持つ意欲があること。 (2)将来を担う優れた博士人材となることが十分に期待できること (3)研究方法が独創的で、3年間の研究課題設定が適切になされていること (4)博士号取得後のキャリアと3年間で培う能力等を明確に自覚していること (5)アジア諸国との共生など、アジアと関連づけた発展を志向し、融合領域研究に取り組む意識が高いこと	(5)情報・AI分野、モビリティ分野、創薬・医療・個別化予防、基礎医学など医学分野を中心に、人文社会学、理学、数理学、農学など広い分野において、情報・AI技術を利用する研究計画を立案し、研究を遂行する強い意欲を有していること。	(5)量子科学分野の対象となる基礎学理から応用研究まで幅広い階層を融合した学術研究に参画する意欲を持つこと。上記へつながる取り組みやプログラム受講等の経験があればより好ましい。	(6)マテリアル革新を志す融合研究の実施に向けた強い意欲を持ち、研究の社会的意義を明確化できること
全分野共通の講義・研修・セミナー等【必修】	[1] 年度評価（1年次、2年次）の受検 【審査項目：標準修業年限内の学位取得/融合研究・国際共同研究/語学能力】 [2] 企業関係者等外部の関係者を招いた大学主催の研究発表会(D1、D2の内一回以上参加) [3] キャリア開発のためのメンター等との交流（詳細は後日連絡） ※記載の学年は4年制博士課程の場合は1学年上の年次となります。			
対象分野の講義・研修・セミナー等【必修】		[1] 研究科や卓越大学院プログラムが用意するプログラミング科目	[1] 部局横断的な共同研究を創出する大学主催の研究発表会	
対象分野が認定する講義・研修・セミナー等【選択必修】（フェロポイント*：FP）	アジア未来創造	情報・AI分野	量子科学	マテリアル
	※以下より各自選択して、大学院在学中（フェロ終了まで）で30FP以上最大FP上の受講が必要。	※以下より各自選択して、大学院在学中（フェロ終了まで）で30FP以上最大FP上の受講が必要。	※以下より各自選択して、大学院在学中（フェロ終了まで）で30FP以上最大FP上の受講が必要。	※以下より各自選択して、大学院在学中（フェロ終了まで）で30FP以上最大FP上の受講が必要。
	最大FP：最大FP以上の科目数を受講しても良いが、合計FPとしては最大FP数しかカウントはされないことを意味する。	最大FP：最大FP以上の科目数を受講しても良いが、合計FPとしては最大FP数しかカウントはされないことを意味する。	最大FP：最大FP以上の科目数を受講しても良いが、合計FPとしては最大FP数しかカウントはされないことを意味する。	最大FP：最大FP以上の科目数を受講しても良いが、合計FPとしては最大FP数しかカウントはされないことを意味する。
	[1] トランスファラブルスキル・語学研修・キャリアパスセミナー・異分野研究セミナー・院生企画セミナー等の受講 8 FP	[1] トランスファラブルスキル・語学研修・キャリアパスセミナー・異分野研究セミナー・院生企画セミナー等の受講 8 FP	[1] トランスファラブルスキル・語学研修・キャリアパスセミナー・異分野研究セミナー・院生企画セミナー等の受講 6 FP	[1] トランスファラブルスキル・語学研修・キャリアパスセミナー・異分野研究セミナー・院生企画セミナー等の受講 9 FP
	[2] インターンシップなど（国内外の企業・国際機関・研究機関等でのインターンシップなど） 24FP	[2] インターンシップなど（国内外の企業・国際機関・研究機関等でのインターンシップなど） 24FP	[2] インターンシップなど（国内外の企業・国際機関・研究機関等でのインターンシップなど） 24FP	[2] インターンシップなど（国内外の企業・国際機関・研究機関等でのインターンシップなど） 24FP
	[3] 海外研究渡航（研修・短期留学） 16FP	[3] 海外研究渡航（研修・短期留学） 8 FP	[3] 海外研究渡航（研修・短期留学） 12FP	[3] 海外研究渡航（研修・短期留学） 12FP
	[4] 国際会議・国際学会発表 14FP	[4] 国際会議・国際学会発表 国際誌論文発表 6 FP	[4] 国際会議・国際学会発表 6 FP	[4] 国際会議・国際学会発表 研究賞の獲得 6 FP
	[5] 学生チーム企画（院生企画セミナー企画、起業、ビジネスコンテスト出場など） 8 FP	[5] 学生チーム企画（院生企画セミナー企画、起業、ビジネスコンテスト出場など） 8 FP	[5] 学生チーム企画（院生企画セミナー企画、起業、ビジネスコンテスト出場など） 8 FP	[5] 学生チーム企画（院生企画セミナー企画、起業、ビジネスコンテスト出場など） 8 FP
	[6] 共同研究・融合研究等の実施（研究費の共同申請）、産学協同講座や指定共同研究等への参画（指導教員と相談し実施） 24FP	[6] 共同研究・融合研究等の実施（研究費の共同申請）、産学協同講座や指定共同研究等への参画（指導教員と相談し実施） 24FP	[6] 共同研究・融合研究等の実施（研究費の共同申請）、産学協同講座や指定共同研究等への参画（指導教員と相談し実施） 24FP	[6] 共同研究・融合研究等の実施（研究費の共同申請）、産学協同講座や指定共同研究等への参画（指導教員と相談し実施） 24FP
[7] 社会課題発見・異分野融合研修等の短期ワークショップに参加 8 FP	[7] 社会課題発見・異分野融合研修等の短期ワークショップに参加 8 FP	[7] 社会課題発見・異分野融合研修等の短期ワークショップに参加 12FP	[7] 社会課題発見・異分野融合研修等の短期ワークショップに参加 12FP	
[8] 博士機構が企画、運営する活動（セミナー等に含まれる活動を除く） 1 0 FP	[8] 博士機構が企画、運営する活動（セミナー等に含まれる活動を除く） 1 0 FP	[8] 博士機構が企画、運営する活動（セミナー等に含まれる活動を除く） 1 0 FP	[8] 博士機構が企画、運営する活動（セミナー等に含まれる活動を除く） 1 0 FP	